

# 特別支援学級における指導の充実に向けて (2)

－ 自立活動の基本的な考え方－

平成28年3月  
群馬県総合教育センター

## 目 次

はじめに .....	1
自立活動の「自立」とは、どんなこと? .....	1
なぜ、自立活動の指導が必要な? .....	1
自立活動の「目標」は? .....	2
自立活動の教育課程上の位置付けは? .....	3
自立活動の「内容」は? .....	4
自立活動の「内容」は、どう取り扱えばよいの? .....	6
「具体的な指導内容」は、どう設定すればよいの? .....	7
「具体的な指導内容」の設定手順は?	
Aさん(小学校 知的障害特別支援学級 4年生)を例に .....	8
Bさん(中学校 自閉症・情緒障害特別支援学級 1年生)を例に ..	13
自立活動の「評価」は、どう生かせばよいの? .....	17

## はじめに

初めて特別支援学級の担任になった先生方から、『自立活動』では、何を教えればよいのですか』『自立活動』で具体的に教えることが一覧になっている資料はないですか」といった質問を受けることがあります。これらの質問の背景には次のような、「自立活動」の指導の分かりにくさがあるようです。

小・中学校の教育は、児童生徒の生活年齢に即して系統的・段階的に進められています。また、その教育の内容は児童生徒の発達の段階等に即して選定されたものが配列され、各教科においては、小学校（中学校）学習指導要領にその内容が示され、主たる教材として教科書も準備されています。一方、「自立活動」の指導においては、その内容は、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領において大綱的に示してあることから、具体的な指導内容がイメージしにくかったり、何を教えたらよいのか分かりにくかったりすることが生じているようです。

このような分かりにくさを解消していくためには、自立活動の意義や自立活動の指導を必要としている児童生徒の状態等について理解を深める必要があります。

## 自立活動の「自立」とは、どんなこと？

### 自立活動の基本的な考え方

自立活動における「自立」とは、「**児童生徒がそれぞれの障害の状態や発達段階に応じて、主体的に自己の力を可能な限り発揮し、よりよく生きていこうとすること**」を意味しています。つまり、児童生徒一人一人が、自分の力を存分に発揮し、主体的により良く生きていけるようになることが「自立」であり、この「自立」に向けた、児童生徒の学習活動が自立活動の指導となるのです。

したがって、「将来の自立に向けて、調理ができるようになる」といった、一人で自立した生活ができるようになるための技能や態度を身に付けることを直接のねらいとする指導ではないことに留意する必要があります。

## なぜ、自立活動の指導が必要なの？

### 自立活動の基本的な考え方

障害のある児童生徒は、その障害によって、日常生活や学習場面において様々なつまずきや困難が生じることから、障害のない児童生徒と同じように、心身の発達段階等を考慮して教育するだけでは十分とは言えません。障害のある児童生徒が、障害のない児童生徒と同様に、自分の力を存分に発揮し主体的によりよく生きていけるようになるためには、一人一人の障害の特性に応じたきめ細かな特別な配慮に加え、個々の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導が必要となります。これに応えるものが自立活動の指導であり、この指導により、児童生徒の人間として調和のとれた育成を目指しているのです。

## 自立活動の「目標」は？

### 自立活動の基本的な考え方

これまでに確認した自立活動の意義を踏まえ、改めて自立活動の目標を見てみましょう。

### 目標

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達<sup>1</sup>の基盤を培う。

目標からは、次のような自立活動の指導の特色が読み取れます。

#### ○「個々の児童又は生徒が…」が示すこと

自立活動が、個に応じた指導であり、一人一人の教育的ニーズに応える指導であることを示しています。

#### ○「…、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服する」が示すこと

自立活動における指導が、障害そのものへの指導ではなく、障害により生じている学習上又は生活上の困難さに対する指導であることを示しています。

また、「主体的に改善・克服する」とは、改善・克服するのが児童生徒本人であること、児童生徒自身が、障害によって生ずるつまずきや困難を軽減しようとしたり、障害があることを受容したり、つまずきや困難の解消のために努めたりできるようになることを示しています。

指導者には、一人一人の学習の様子や生活の様子等、実態を的確に把握し、つまずきや困難さの原因を明らかにして指導に当たることが求められます。

### ポイント

#### ○自立活動は、

一人一人の児童生徒の実態に応じた活動であり、自立を目指した主体的な取組を促す教育活動です。





## 自立活動の教育課程上の位置付けは？

### 自立活動の基本的な考え方

自立活動は特別支援学校の教育課程に特別に設けられた指導領域です。しかし、特別支援学級に在籍する児童生徒の一人一人の障害の状態等を考慮すると、小学校又は中学校の教育課程をそのまま適応することが必ずしも適当でなく、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に示されている自立活動等を取り入れた特別な教育課程を編成することが必要な場合があります。このため、学校教育法施行規則には、特別の教育課程を編成できることが規定されています。そして、小学校（中学校）学習指導要領解説（総則）では、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領を参考とし、例えば、障害による学習上又は生活上の困難の改善・克服を目的とした指導領域である「自立活動」を取り入れるなどして、実情に合った教育課程を編成する必要があることが示されています。

また、自立活動は、授業時間を特設して行う自立活動の時間における指導を中心とし、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことが大切です。

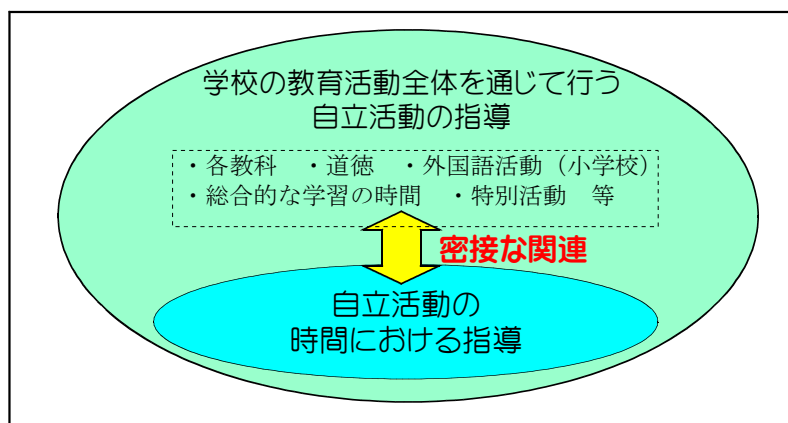


図1 学校の教育活動全体を通じて行う自立活動の指導

### ポイント

- 自立活動の指導は、学校の教育活動全体を通じて行うものです。
- 自立活動の時間における指導と各教科等における指導との密接な関連を図ることが大切です。

例えば、手指の巧緻性に課題のある児童が、自立活動の時間における指導だけでこの課題に取り組むのではなく、図画工作の時間に、はさみを使って作品作りを行う際には、児童がはさみを持ちやすいように教師が手を添えて安定して切れるポイントを伝えたり、握るだけで刃が閉じるようなはさみを用意したりして一人で活動を行えるようにするなど、自立活動の時間における指導との関連を図ることが大切です。この際、各教科等の指導においては、まずは各教科等の指導のねらいを達成することが基本であり、自立活動に関する指導は原則として各教科等の指導のねらいを達成するために、個々の困難さに対して配慮するといった視点を持つことが大切となります。

## 自立活動の「内容」は？

### 自立活動の基本的な考え方

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に示されている自立活動の「内容」は、指導内容を指すものではないので留意する必要があります。

学習指導要領に示されている自立活動の「内容」は、人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素と、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素で構成しています。この代表的な要素である26項目を「健康の保持」、「心理的な安定」、「人間関係の形成」、「環境の把握」、「身体の動き」及び「コミュニケーション」の六つの区分に分類・整理したものが「内容」として示されています。



図2 自立活動の内容

※ 自立活動の「内容」は、これまでの「自立活動」(旧養護・訓練)の実践において検討されてきた、たくさんの方の具体的な指導内容から、人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素と、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素を抽出し、それらの中から代表的な要素を「項目」として示しているのです。

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領における自立活動の「内容」は、以下のように示されています。

#### 1 健康の保持

- (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること
- (2) 病気の状態の理解と生活管理に関すること
- (3) 身体各部の状態の理解と養護に関すること
- (4) 健康状態の維持・改善に関すること

#### 2 心理的な安定

- (1) 情緒の安定に関すること。
- (2) 状況の理解と変化への対応に関すること
- (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること

#### 3 人間関係の形成

- (1) 他者とのかかわりの基礎に関すること
- (2) 他者の意図や感情の理解に関すること
- (3) 自己の理解と行動の調整に関すること
- (4) 集団への参加の基礎に関すること

#### 4 環境の把握

- (1) 保有する感覚の活用に関すること
- (2) 感覚や認知の特性への対応に関すること
- (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること
- (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関すること
- (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること

#### 5 身体の動き

- (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること
- (2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関すること
- (3) 日常生活に必要な基本動作に関すること
- (4) 身体の移動能力に関すること
- (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること

#### 6 コミュニケーション

- (1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること
- (2) 言語の受容と表出に関すること
- (3) 言語の形成と活用に関すること
- (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること
- (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

## ポイント

- 「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部・高等部)」には、各項目の意味や具体的指導内容例と留意点が示されています。自立活動の指導に当たっては必ず目を通しておきましょう。文部科学省の以下のWebページからダウンロードすることができます。

[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2009/06/18/1278525.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2009/06/18/1278525.pdf)

(平成28年3月 現在)

## 自立活動の「内容」は、どう取り扱えばよいの？

### 自立活動の基本的な考え方

小学校(中学校)学習指導要領に示されている各教科等の「内容」は、該当する学年すべての児童生徒が学ぶべき指導内容ですが、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に示されている自立活動の「内容」は、各教科等の「内容」とは違い、児童生徒の障害の状態や発達の程度等に応じて選定されるものであり、そのすべてを指導するものではありません。また、その授業時数も、個々の児童生徒の障害の状態等に応じて設定される必要があるため、一律に授業時数の標準も示されていません。自立活動では、児童生徒の障害の状態やこれに基づく教育的ニーズは一人一人に異なり、必要となる指導内容も一人一人に異なるとの考えにより、一律に指導内容を示していません。このような、自立活動の考え方は、指導計画の作成や指導形態を考える際にも同様です。それは、一人一人の実態を的確に把握し、個別に指導の目標や具体的な指導内容を定めた個別の指導計画を作成して指導に当たることや最初から集団での指導を前提とせず、個別の指導を中心として、効果的な場合に集団を構成して指導するといった点に表れています。

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に示されている自立活動の「内容」は、個々の児童生徒に設定する「具体的な指導内容」の要素として示されています。「具体的な指導内容」を設定するためには、まず一人一人の障害による学習上又は生活上の困難などを的確に把握することから始めます。次に、自立を目指して設定される指導目標を達成するために、学習指導要領に示されている自立活動の「内容」の中から、必要な項目を選定し、それらを相互に関連付けて「具体的な指導内容」としていきます。

### ポイント

- 自立活動の「具体的な指導内容」は、一人一人の実態に応じて設定されるものであり、自立活動の「内容」にあるすべてを指導するものではありません。
- 自立活動の指導は、個別指導の形態で行うことが基本です。指導の目標を達成する上で効果的である場合には、集団を構成して指導することも考えられます。



## 「具体的な指導内容」は、どう設定すればよいの？

### 自立活動の基本的な考え方

個々の児童生徒の障害の状態や学習上又は生活上の困難は一人一人異なります。したがって、自立活動の指導における個々の指導内容も一人一人異なるものとなります。自立活動の指導を行うに当たっては、一人一人の障害による学習上又は生活上の困難などを的確に把握し、一人一人に指導の目標及び指導内容を明確にした指導計画が必要となります。この計画が、自立活動における個別の指導計画となります。

自立活動における指導目標及び指導内容を設定していくためには、在籍する児童生徒一人一人について、下図のような手順で検討を重ねることが大切です。

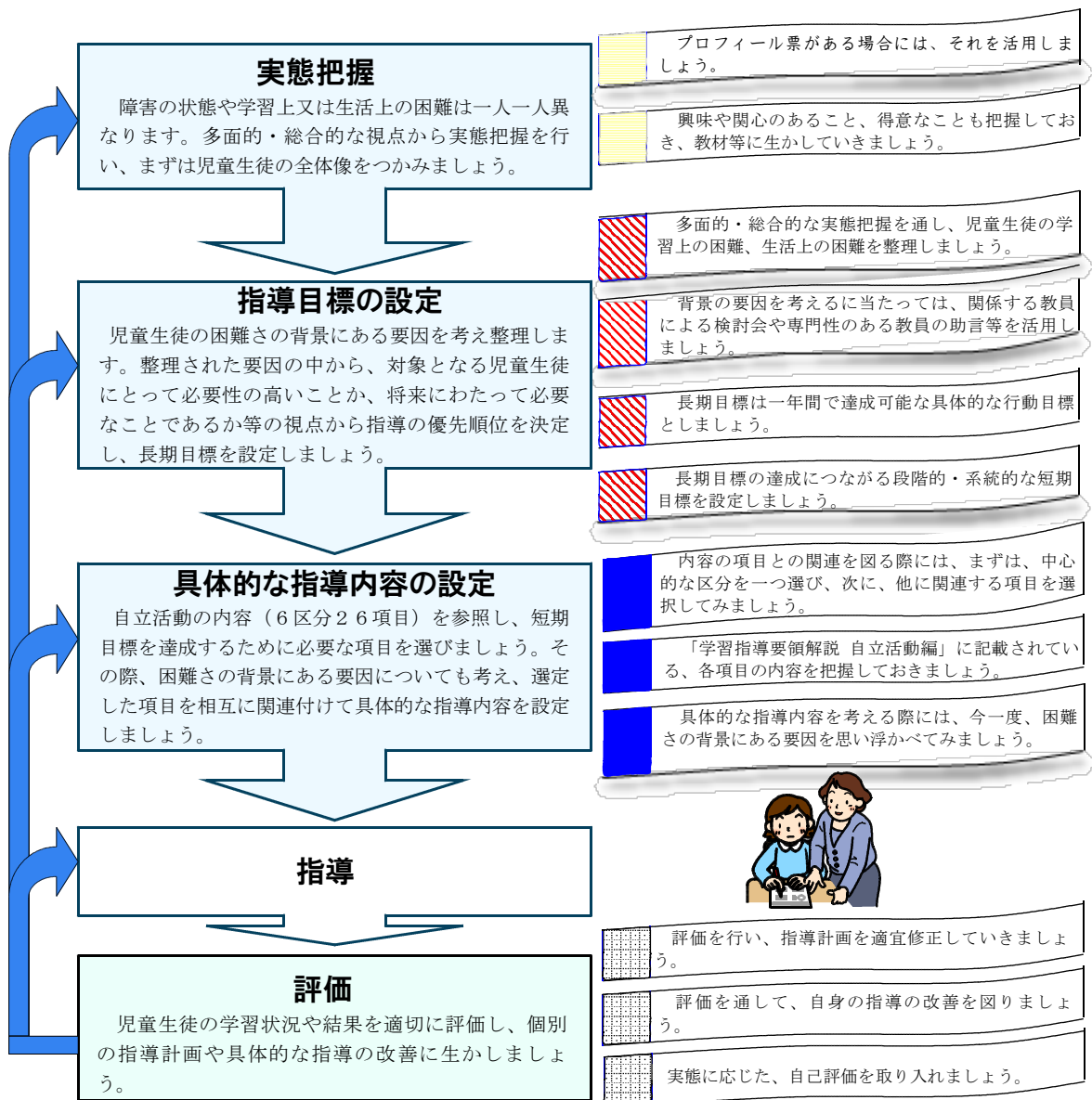


図3 自立活動における「実態把握」から「評価」までの手順

## 「具体的な指導内容」の設定手順は？

Aさん(小学校 知的障害特別支援学級 4年生)を例に

これより先は、小学校 知的障害特別支援学級に在籍している児童Aさん（4年生）を例に、具体的な指導内容の設定までの手順を考えてみます。

### 実態把握

担任は、日常の観察、本人・保護者との面談、他の教員からの聞き取り、これまでの引継ぎ資料等を基に、以下にあるような観点で情報を整理しました。この際、Aさんのできないことだけにならないよう、今できていることや得意としていること等、本人のよさについても着目し、Aさんの全体像をつかむよう心掛けました。

### ポイント

○実態把握をゼロから行わなければならないこともありますが、これまでに作成されてきたプロフィール票等がある場合には、それを活用してみましよう。その際、プロフィール票に記載されている事柄が現在の状態とは異なるときには、追記等により最新のプロフィール票とするとともに、これまでの成長の様子を知り、指導の手掛かりとしていきたいと思います。

Aさんのプロフィール票	
本人・保護者からの情報	<ul style="list-style-type: none"><li>・放課後は一人でテレビを見て過ごすことが多い。</li><li>・母親は勤めに出ていることから、朝や放課後はAさんに関わる時間が十分には持てない。</li><li>・家庭では、はっきりとした言葉で要求を伝えなくても母親がAさんのしぐさや表情等から意をくんで対応している。</li><li>・保護者は交流学級で過ごす時間が増えることを願っている。</li><li>・……………</li></ul>
医学的な視点から	<ul style="list-style-type: none"><li>・自閉症スペクトラム障害との診断がある。</li><li>・肥満傾向である。</li><li>・……………</li><li>・……………</li></ul>
心理学的な視点から	<ul style="list-style-type: none"><li>・カレンダー、数字、漢字などの記憶力に優れている。</li><li>・知的な発達の違いや遅れがある。</li><li>・衣服にこだわりがあり、一年を通して同じ服装を好む。</li><li>・……………</li><li>・……………</li></ul>
学校での様子から	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校以外では人に関わる機会が少ない。</li><li>・掃除などの作業手順の説明を受けると、区切りとなる手順まで活動が続けることができる。</li></ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一日の活動の流れを理解していて、自分から授業の用意や教室移動をすることができる。</li> <li>・自分から同学年の児童に関わろうとすることは少ないが、いつも明るい態度で振る舞い、周囲の児童から声を掛けられると、一緒に活動しようとする。</li> <li>・やりたいことを我慢することが苦手で、順番を守ったり、役割分担で活動したりする場面では、思い通りにならないときに、かんしゃくを起こすことが多い。</li> <li>・気持ちが不安定になると、漢字やカレンダーを机の上や黒板などいろいろなところに書き出したり、コマースシャルの台詞等を大声で叫んだりすることで、安定を図ろうとする。</li> <li>・授業についていけないときには、離席をしたり、授業とは関係のない漢字やカレンダーを書いて見せたりして、周りの人の関心を集めようとするところがある。</li> <li>・……………</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・……………</li> </ul>

## ポイント

○実態把握の際、児童生徒のつまずきや困難さだけに着目すると、課題ばかりが増えてしまい、実際の指導においては、児童生徒に苦手なことだけを強いる結果となる恐れがあります。障害のある児童生徒が自立的、主体的に生きていけるようにするためには、児童生徒が自分のよさを十分に理解し、自分の得意な能力を生かして、苦手なことや困難なことを克服していけるよう、指導を計画することが大切です。実態把握を行うに当たっては、一人一人のよさについても着目し、そのよさの要因も把握しておきましょう。また、その子の将来の生活を考えると、いった長期的な視点を持つなど、多面的・総合的な視点から実態把握を行う必要があります(図4)。

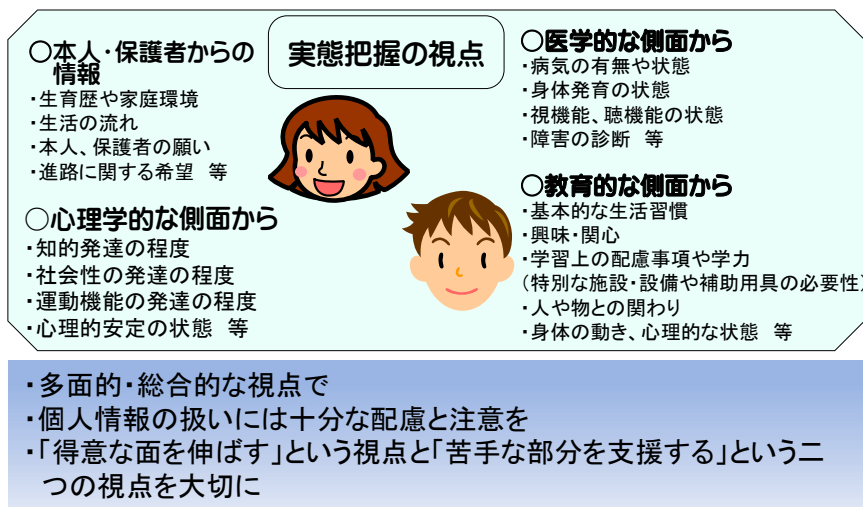


図4 実態把握の視点と留意点

## 指導目標の設定

Aさんの全体像を把握した担任は、次に、障害による学習上又は生活上の困難という視点から、Aさんの自立活動の指導における実態を以下のように整理しました。また同時に、Aさんの学習上又は生活上の困難の背景にある要因について考えました。

自立活動の指導における実態	<p>(学習上の困難)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・感想文や日記を書く学習では、何を書けばよいのかが分からず、あきらめてしまう。</li><li>・記憶している漢字を書き連ねること、繰り返し・繰り返りのある計算問題を筆算して答えることができるが、それらを利用した問題や生活場面での活用は難しい。</li></ul> <p>(生活上の困難)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自分のやりたいことを我慢することが苦手で、友達とトラブルになってしまうことがある。</li><li>・順番を守ったり、役割分担を担って友達と交流したりする場面で気持ちが不安定になってしまう。</li><li>・いつも話題が同じであったり、自分の気持ちを適切に表現することができなかつたりするため、友達とのやりとりが続かない。</li></ul>
背景にある要因	<p style="text-align: center;"><b>どうして?</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○学んだ知識や技能を他の場面で生かす力の弱さ</li><li>○感情や行動の抑制の弱さ</li><li>○使用できる語彙の少なさやコミュニケーション手段の少なさ</li><li>○主体的なコミュニケーションの不足 (コミュニケーションの楽しさを知る経験の少なさ)</li></ul>

## ポイント

○以上のように困難の背景にある要因について分析することで、Aさんが困っている学習上又は生活上のつまづきを改善・克服するためには、どんな知識、技能、態度及び習慣が必要なのかを明らかにしていくことができます。

担任は、Aさんが、周囲の人とやりとりをすることの楽しさを見いだせていないことが、Aさんの学習上又は生活上の困難を大きくしているのだろうと捉えました。そして、困難の背景には、主体的なコミュニケーションにつながる語彙が不足していることやコミュニケーション手段の少なさが要因しているのではないかと捉えました。また、語彙やコミュニケーション手段の不足とともに、感情を抑制する弱さが要因し、自分の気持ちが上手く相手に伝わらなかったときにかんしゃくとして表れているのではないかと考えました。



以上のような検討を通して、Aさんが、自分の気持ちを周囲の友達に上手く伝えられるようになることで、友達と活動を共有する楽しさを感じられるようになることがAさんの学習や生活を豊かにするものとして優先されるであろうと考え、Aさんに期待する一年後の姿を想定し、長期目標を以下のように設定しました。

長期目標	自分の思いや考えを言葉と身振りで伝えることができる。
------	----------------------------

## ポイント

長期目標の設定に当たっては、次のような視点を持つことが大切です。

- 少し頑張れば達成できそうなことであるか。
- 将来を見通した上で、現在必要とされていることであるか。

続いて、設定した長期目標の達成に向けて短期目標を設定します。

Aさんの担任は、長期目標にある「自分の思いや考え」や「言葉と身振り」について段階的、系統的に取り上げていくことで長期目標に迫ることができると考え、以下のような短期目標を設定しました。

短期目標 (1学期)	嫌な気持ちや不安な気持ちを言葉や身振りで教師に伝えることができる。
---------------	-----------------------------------

短期目標 (2学期)	「〇〇がやりたい」「△△を貸してほしい」などの自分の意思を身振りも交えながら友達に伝えることができる。
---------------	---

短期目標 (3学期)	友達に自分の気持ちを言葉と身振りで伝えながら、一緒に遊ぶことができる。
---------------	-------------------------------------

## ポイント

- 長期目標の達成につながるよう、短期目標は段階的・系統的に設定しましょう。

### 具体的な指導内容の設定

短期目標まで設定できたら、次に具体的な指導内容を設定します。短期目標を達成するためにどのような具体的な指導内容が必要なのかを考える際、参考となるのが、自立活動の内容である6区分26項目になります。

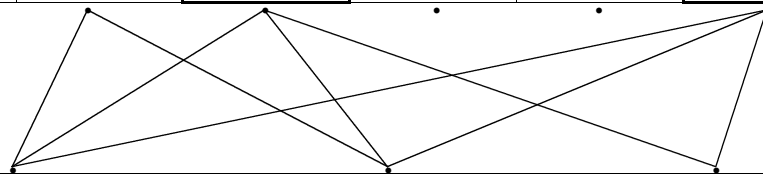
この際、Aさんの短期目標を基に考えるとともに、Aさんの困難さの背景にある要因を今一度確認し、短期目標を達成するために必要な項目を選定することが大切です。

担任は、短期目標の設定に当たり、まずは、Aさんが自分の思いが伝えられずに困ったとき、困っている自分に気付き、そのことを身近な教師に伝えられるようになることが必要だと考えました。そこで、具体的な指導内容を設定するにあたっては、六

つの区分の中でも、「人間関係の形成」と「コミュニケーション」の区分にある項目を中心にする必要があると考えました。また、この他にも、Aさんが周囲の状況に対応して、安定した気持ちで人と関わっていける視点も必要だと考え、「心理的な安定」の区分にある項目との関連を図って具体的な指導内容を設定する必要があると考えました。

そして、それぞれの項目に関連する内容を結び付けながら、具体的な指導内容を設定し、最後に設定した「具体的な指導内容」を取り扱う指導場面を設定しました。

区分	1健康の保持	2心理的な安定	3人間関係の形成	4環境の把握	5身体の動き	6コミュニケーション
項目	<input type="checkbox"/> 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	<input type="checkbox"/> 情緒の安定に関する事	<input type="checkbox"/> 他者とのかかわりの基礎に関する事	<input type="checkbox"/> 保有する感覚の活用に関する事	<input type="checkbox"/> 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	<input type="checkbox"/> コミュニケーションの基礎的能力に関する事
	<input type="checkbox"/> 病気の状態の理解と生活管理に関する事	<input type="checkbox"/> 状況の理解と変化への対応に関する事	<input type="checkbox"/> 他者の意図や感情の理解に関する事	<input type="checkbox"/> 感覚や認知の特性への対応に関する事	<input type="checkbox"/> 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する事	<input type="checkbox"/> 言語の受容と表出に関する事
	<input type="checkbox"/> 身体各部の状態の理解と養護に関する事	<input type="checkbox"/> 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	<input type="checkbox"/> 自己の理解と行動の調整に関する事	<input type="checkbox"/> 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	<input type="checkbox"/> 日常生活に必要な基本動作に関する事	<input type="checkbox"/> 言語の形成と活用に関する事
	<input type="checkbox"/> 健康状態の維持・改善に関する事		<input type="checkbox"/> 集団への参加の基礎に関する事	<input type="checkbox"/> 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関する事	<input type="checkbox"/> 身体の移動能力に関する事	<input type="checkbox"/> コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
				<input type="checkbox"/> 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	<input type="checkbox"/> 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	<input type="checkbox"/> 状況に応じたコミュニケーションに関する事



具体的な指導内容 (二期)	○気持ちを表す言葉と表情のイラストをマッチングさせること ・喜怒哀楽を示した場面カルタを使い、場面や人の表情から気持ちを表す言葉を選んだり、気持ちを表す言葉から適した場面絵を選んだりする (自立活動の時間)	○困ったときの対処の仕方 ・教師に伝える ・その場を離れる ・SOSカードを使う (自立活動の時間・特別活動 ・交流及び共同学習)	○伝え方 ・身振りで伝える ・カードや写真を使って伝える ・言葉とカード(身振り)で伝える (自立活動の時間・休み時間 ・朝の会)
------------------	---	--	--

## ポイント

具体的な指導内容の設定に際しては、以下の点に配慮しましょう。

- **主体的に取り組む指導内容**  
興味をもって主体的に取り組む、成就感を味わうとともに自己を肯定的にとらえることができるような指導内容
- **改善・克服の意欲を喚起する指導内容**  
障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意欲を高めることができるような指導内容
- **遅れている側面を補う指導内容**  
発達の進んでいる側面を更に伸ばすことによって、遅れている側面を補うことができるような指導内容
- **自ら環境を整える指導内容**  
活動しやすいように自ら環境を整えたり、必要に応じて周囲の人に支援を求めたりすることができるような指導内容

## 「具体的な指導内容」の設定手順は？

Bさん(中学校 自閉症・情緒障害特別支援学級 1年生)を例に

次は、中学校 自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍している生徒Bさん（1年生）を例にして、具体的な指導内容の設定までの手順を考えてみます。

### 実態把握

担任は、日常の観察、本人・保護者との面談、他の教員からの聞き取り、これまでの引継ぎ資料等を基に、以下にあるような観点で情報を整理しました。この際、Bさんのできないことだけにならないよう、今できていることや得意としていること等、本人のよさについても着目し、Bさんの全体像をつかむよう心掛けました。

Bさんのプロフィール票	
本人・保護者からの情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータに興味・関心があり、家庭ではインターネットを楽しんでいる。</li> <li>・友達の視線が気になることを不安として訴えている。 （「自分の悪口を言われているような気がする」と感じている。）</li> <li>・中学校卒業後の進路を決めていないが、コンピュータの勉強をしたいと考えている。</li> <li>・保護者は全日制高校に進学してほしいと考えている。</li> <li>・……………</li> </ul>
医学的な視点から	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に心療内科に通院し、不安を和らげる薬を飲んでいる。</li> <li>・服薬の影響で眠くなることがある。</li> <li>・服薬をしても、不安から学校にいられないことがある。</li> <li>・……………</li> </ul>
心理学的な視点から	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情緒が不安定になることがある。</li> <li>・（個別式検査から）単語の知識はあるが、カテゴリーに分類したり、複雑な文章を理解したりすることが苦手である。</li> <li>・……………</li> </ul>
学校での様子から	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では数学の基礎学習に意欲的に取り組んでいる。</li> <li>・中学校で始まった英語に興味を持っている。</li> <li>・国語の学習を苦手としている。</li> <li>・集団に強い不安を抱えていて、交流及び共同学習には参加できなていない。</li> <li>・特別支援学級の特定の教員と友達となら会話ができる。</li> <li>・自分が好きなコンピュータの話になると、一方的に話し続けてしまうことがある。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級の友達同士であっても会話には入れない。</li> <li>・昼休みなどは、一人でぼんやりして過ごすことが多い。</li> <li>・嫌なことがあっても断ったり、避けたりすることができず、不満や不安がたまると突然怒り出したり、物に当たったりしてしまうことがある。</li> <li>・……………</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校では特別支援学級に在籍し、少人数での学習や生活が主であった。</li> <li>・小学生のときは学校を休みがちであった。気持ちが向かないと学習に取り組めないことが多かったため、学習内容が十分には身に付いていない点が多い。</li> </ul>

### 指導目標の設定

Bさんの全体像を把握した担任は、次に、障害による学習上又は生活上の困難という視点から、Bさんの自立活動の指導における実態を以下のように整理しました。また同時に、Bさんの学習上又は生活上の困難の背景にある要因について考えました。

自立活動の指導における実態	<p>(学習上の困難)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の学習では、心情の変化を読み取ることが苦手で、自分なりの誤った解釈をしてしまう。</li> </ul> <p>(生活上の困難)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつも友達の視線が気になり、自分がやりたいと思ったことがあっても我慢してしまい、表現できていない。</li> <li>・我慢ができなくなると突然怒り出したり、物に当たったりするなど、不安定になってしまう。</li> <li>・友達と楽しく会話をする事ができず、学校生活への楽しみを見いだせずにいる。</li> <li>・自分のことをよく思ってくれていると感じる人以外は関わらずにいるため、人間関係が限定されてしまう。</li> <li>・一度思い込むと、教師が説明しても、なかなか納得できないことが多く、気持ちが不安定になってしまう。</li> </ul>
背景にある要因	<p style="text-align: center;">↓ <b>どうして?</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自己理解の困難さ</li> <li>○他者の意図や感情の理解の弱さ</li> <li>○感情や行動の抑制の弱さ</li> <li>○主体的なコミュニケーションの不足</li> </ul>

担任は、Bさんが、友達や周囲の人が自分のことをどう見ているのか分からないといった不安を常に抱えていることや、友達とどう関わったらよいか分からないといったことが、Bさんの学習上又は生活上の困難さを大きくしているのだろうと捉えました。そして、その背景には、自分がどのような人間かといった自己理解の困難さがあることやBさんが他者の意図や感情を理解することを苦手に行っていることが要因しているのではないかと考えました。そこで、まずは、限られた友達や支援者との間だけでも、自分の気持ちを上手く伝えられるようになることがBさんの学習や生活を豊かにするものとして、また、緊急性の高いものとして優先されるであろうと考えました。そこで、Bさんに期待する一年後の姿を想定し、長期目標を以下のように設定しました。

長期目標	気の合う友達と会話をして、休み時間を過ごすことができる。
------	------------------------------

続いて、設定した長期目標の達成に向けて短期目標を設定します。

担任は、Bさんが長期目標にあるような、気の合う友達と会話するといった人との関わりができるようになるためには、自分の気持ちを表現することや相手の気持ちを理解することを、段階的、系統的に取り上げていく必要があると考え、以下のような短期目標を設定しました。

短期目標 (1学期)	自分の気持ちや思いを、パソコンを使って文にまとめたり、発表したりすることができる。
---------------	---

短期目標 (2学期)	自分や友達の行動を振り返り、行動の理由や結果の原因について考えることができる。
---------------	---

短期目標 (3学期)	嫌なことや不安な気持ちにあることを、親しい人に伝えることができる。
---------------	-----------------------------------



## 具体的な指導内容の設定

短期目標まで設定できたら、次に具体的な指導内容を設定します。短期目標を達成するためにどのような具体的な指導内容が必要なのかを考える際、参考となるのが、自立活動の内容である6区分26項目になります。

この際、Bさんの短期目標を基に考えるとともに、Bさんの困難さの背景にある要因を今一度確認し、短期目標を達成するために必要な項目を選定することが大切です。

Bさんの担任は、短期目標の設定に当たり、まずは、Bさんが自分の気持ちをしっかりと文字や言葉に置き換えられるようになることを目指しました。そこで、具体的な指導内容を設定するにあたっては、六つの区分の中でも、「人間関係の形成」の区分にある項目を中心にする必要があると考えました。また、この他にも、Bさんが自分の気持ちを伝えられるようになるためには、友達の前で発表する活動等を通して、伝えることに自信を持てるようになることが必要だと考え、「心理的な安定」や「コミュニケーション」にある項目との関連を図って具体的な指導内容を設定する必要があると考えました。

次に、それぞれの項目に関連する内容を結び付けながら、具体的な指導内容を設定し、最後に設定した「具体的な指導内容」を取り扱う指導場面を設定しました。

区分	1健康の保持	2心理的な安定	3人間関係の形成	4環境の把握	5身体の動き	6コミュニケーション
項目	<input type="checkbox"/> 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	<input type="checkbox"/> 情緒の安定に関する事	<input type="checkbox"/> 他者とのかかわりの基礎に関する事	<input type="checkbox"/> 保有する感覚の活用に関する事	<input type="checkbox"/> 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	<input type="checkbox"/> コミュニケーションの基本的能力に関する事
	<input type="checkbox"/> 病気の状態の理解と生活管理に関する事	<input type="checkbox"/> 状況の理解と変化への対応に関する事	<input type="checkbox"/> 他者の意図や感情の理解に関する事	<input type="checkbox"/> 感覚や認知の特性への対応に関する事	<input type="checkbox"/> 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事	<input type="checkbox"/> 言語の受容と表出に関する事
	<input type="checkbox"/> 身体各部の状態の理解と養護に関する事	<input type="checkbox"/> 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	<input type="checkbox"/> 自己の理解と行動の調整に関する事	<input type="checkbox"/> 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	<input type="checkbox"/> 日常生活に必要な基本動作に関する事	<input type="checkbox"/> 言語の形成と活用に関する事
	<input type="checkbox"/> 健康状態の維持・改善に関する事		<input type="checkbox"/> 集団への参加の基礎に関する事	<input type="checkbox"/> 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関する事	<input type="checkbox"/> 身体の移動能力に関する事	<input type="checkbox"/> コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
				<input type="checkbox"/> 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	<input type="checkbox"/> 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	<input type="checkbox"/> 状況に応じたコミュニケーションに関する事

具体的な指導内容 (一学期)	○感情を表す言葉とその使い方 ・自分の体験から ・場面を考えて (自立活動の時間・国語)	○発表の仕方 ・相手に伝わりやすい話し方 ・声の大きさ ・緊張のほぐし方 (自立活動の時間・国語)	X

## 自立活動の「評価」は、どう生かせばよいの？

### 自立活動の基本的な考え方

自立活動における児童生徒の学習の評価は、実際の指導が個々の児童生徒の指導の目標（ねらい）に照らしてどのように行われ、児童生徒がその指導の目標の実現に向けてどのように変容しているかを明らかにするものです。また、児童生徒がどのような点でつまずき、それを改善するためにどのような指導をしていけばよいかを明確にしようとするものでもあります。児童生徒の学習状況や結果を適切に評価し、個別の指導計画や具体的な指導の改善に生かすよう努めることが大切です。

#### ○評価を行い、指導計画を適宜修正していきましょう。

個別の指導計画は、当初の仮説に基づいて立てた見通しであり、児童生徒にとって適切な計画であるかどうかは、実際の指導を通して明らかになるものです。児童生徒の学習状況や結果を踏まえ、目標や具体的な内容等を見直すなど、より児童生徒のニーズに応じた指導計画となるよう修正していきましょう。

#### ○評価を通して、自身の指導の改善を図りましょう。

指導と評価は一体であると言われるように、評価は児童生徒の学習評価であるとともに、教員の指導に対する評価でもあります。教員には、評価を通して指導の改善が求められます。教員自身が自分の指導の在り方を見つめ、児童生徒に対する適切な指導内容・方法に結び付けていくことが求められています。

#### ○実態に応じた、自己評価を取り入れましょう。

評価は、児童生徒にとっても、自らの学習状況や結果に気付き、自分を見つめ直すきっかけとなり、その後の学習や発達を促すという意義があります。したがって、自立活動の時間の課題についても、学習中あるいは、学習後において、児童生徒の実態に応じて、自己評価を取り入れることが大切になります。

